

特集

排尿自立指導の実践 —医師の立場から

青木芳隆 堤内真実

福井大学医学部泌尿器科

Key Words 排尿ケア, 排尿障害, チーム医療, リハビリテーション

排尿自立指導料算定が開始されたことにより、我々泌尿器科医も多職種によるチーム医療活動に関わる機会が増えてきた。排尿ケアは、患者のQOLの向上、尿路感染制御、あるいは早期退院、在宅復帰につなげることができる。多職種チームのなかで泌尿器科医は、自らの専門分野である排尿障害の治療や尿路感染対策などについて、他職種へ教育や指導を行うが、それと同時にケアやリハビリテーションについては他職種から学ぶことも多い。時にはリーダー、時には調整役として、チームで排尿ケアに関わることは、他の泌尿器科領域とはまた異なる、泌尿器科医としての醍醐味となっている。

はじめに

医師、看護師、各療法士、あるいはケア職、またどの職種であろうと、排尿に関与する者なら誰もが排尿ケアに関わることができる。その反面、自分はその専門であるという意識が薄くなるために、ともすれば、看護または介護の基本的な業務の1つのように扱われ、どちらかといえば「下の世話」という扱いで、ひっそりで行われてしまう。その一方で、非常に熱心な医療従事者によ

て充実した排尿ケアが行われてきた施設も多くある。そういった方々による勉強会や研究会がそれぞれの地域で開催され、熱心に、地道に、根気よく活動を続けてきていたという経緯と背景がある。

このようななかで、わが国の医療における排尿ケアに大きな変化をもたらしたのが、平成28年度の診療報酬改定における「排尿自立指導料算定」である。報酬が動機付けになったかどうかはさておき、これを契機にわが国でも多職種チームとしての排尿ケアへの関心度は高まった。そのことは、医療現場でも、また学会などにおいても、多

Yoshitaka Aoki (講師), Manami Tsutsumiuchi